

# 薄膜・表面物理における研究手法技術の最新動向

Recent Progress of Research Methods in Thin films and Surface Physics

2023年9月21日（木）13:30-18:10（予定）

シンポジウムT9、熊本城ホール他

近年の薄膜・表面物理分野での研究手法の進展は大変目覚ましいものです。従来の研究手法である実験、理論に加え、それらの融合であるDXという研究手法も急速に発展しています。これら研究手法の進展は、それを応用して推進される応用物理学会の様々な分野の研究の進展にも欠かせないものです。しかしながらこれらの研究手法は他の学会の講演会で報告されていたり、応用物理学会の学術講演会内であってもバラバラのセッションで報告されていることが多いのが実情でした。そこで、このような最新の研究手法の進展の中から活躍されている方々を招待し、当分野を総合的に俯瞰するシンポジウムを企画しました。多くの方々に参加いただき、活発な意見交換をしていただき、皆さんの研究に役立てていただきたいと思います。

## 招待講演者：

大谷 実・筑波大学

「表面・界面における構造および電気化学反応の第一原理計算」

濱田 幾太郎・大阪大学

「ファンデルワールス密度汎関数の表面・界面への応用」

河口 彰吾・高輝度光科学研究センター

「放射光粉末回折実験に関する自動化と現状」

豊田 智史・シエンタオミクロン株式会社

「光電子分光スペクトルの解析自動化（仮）」

小野 寛太・大阪大学

「機械学習によるX線吸収スペクトル解析の自動化（仮）」

湊 丈俊・分子科学研究所

「エネルギー移動界面の物性と反応機構」

深谷 有喜・日本原子力研究開発機構

「全反射高速陽電子回折による最表面構造研究」

日比野 浩樹・関西学院大学

「表面顕微鏡法を用いた二次元物質のナノスケール構造解析」